

園だより

6月号



令和5年5月31日
新宿区立西戸山幼稚園
園長 佐藤 淳穂



雨の日の幼稚園

園長 佐藤 淳穂

園庭の紫陽花が色付いてきました。雨に濡れるとその美しさが際立ち、梅雨入りもまたよしという気持ちにさせてくれます。先週、春先に生まれたオタマジャクシがカエルになって、一斉に園の池から巣立っていきましたが、その日もやはり雨でした。四方八方にびよんびよんと跳びはねていく何百匹というカエルを、子どもたちは踏まないように気を付けながら追いかけていました。雨が降るのを待って旅立ったカエルたちを見て、雨の恵みと自然界の奇跡に胸が熱くなりました。

雨降りの日は、部屋での遊びが盛況になります。虫探しやボール蹴りに夢中の子どもも部屋で遊ぶので、いろいろなことが起きるのです。数日前の雨の日には、4歳児クラスでお寿司屋さんが開店しました。丸めた白い梱包材の上に赤い画用紙を乗せたまぐろの握り寿司がおかずパックの中に入っています。オレンジ色はサーモン、黄色は卵でしょう。積み木の上に寿司パックが並び、お客を待っています。

誰かお客さんになってくれないかと周りを見ると、製作テーブルでAさんが画用紙を切っていました。お金を作っているのです。すでに財布は出来上がっています。Aさんはお寿司を買うにはお金が必要だと考えたのでしょう。子どもたちは互いを見て心を動かし、それぞれに思いついたことを始めているのです。

遠くの方で、「いらっしゃいませ！」という声がありました。声の主を探すと、ピアノの後ろ側でBさんがお店を構えて座っていました。積み木のカウンターには菓子折りの箱が一つあり、「お饅頭やさんだよ。」と教えてくれました。箱の中には黒い画用紙を丸めたものがたくさん入っていました。おそらく「あんこ」をイメージしているのでしょう。Bさんは、お寿司屋さんを見て、自分も店をやりたいと行動したのだと思います。店をピアノの陰から手前へ移動させて立地条件を改善したところ、いつもは虫探しに忙しいCさんがお饅頭やさんに気付いて、饅頭作りを手伝い始めました。お饅頭やさんは二人になりました。Cさんのアイデアでメロン餡やブルーベリー餡も新登場し、店は活気付きました。

リボンのついた空き箱にぬいぐるみを入れて、ペットを散歩させている3歳児が保育室の前を通りかかりました。雨で庭に出られない3歳児は、廊下に繰り出して気分転換をしていたのです。お寿司やさんに気付いた3歳児の目はお寿司に釘付けになりました。かわいいお客さんの来店、店は大繁盛です。レジを作り始める子、食べるスペースを作る子…客とのやり取りの中で、遊びがどんどん展開していきました。

お饅頭やさんで出会った二人は、片付けた後も隣りに並んでお弁当を食べていました。新しい出会いや関係の深まりを誘う…子どもたちにとっても恵みの雨となった一日でした。